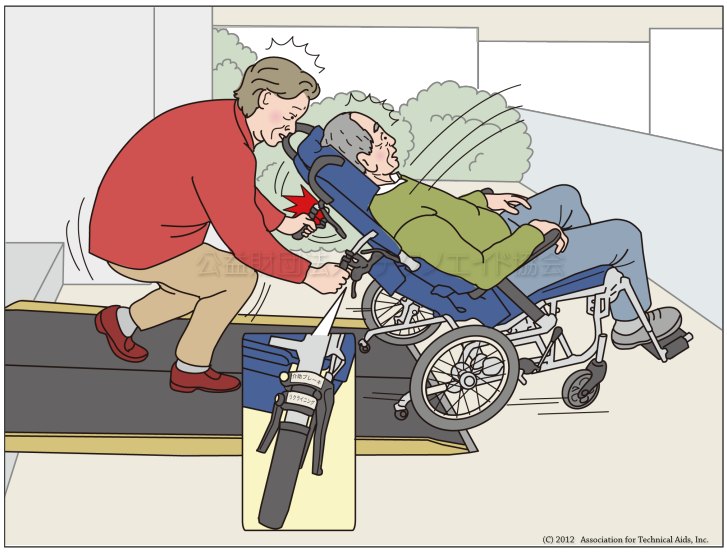
福祉用具ヒヤリハット　研修教材（講師用）

Case：154

誤ってリクライニングレバーを握ってしまい、転倒しそうになる

場面の説明

ブレーキをかけようとしたが、誤って近くに付いていたリクライニングレバーを操作してしまった



利用シーン	移動 外出
主な利用場所	玄関 段差・縁石
介護保険の種目	車いす
分類コード (CCTA95)	122190 (姿勢変換機能付き車いす)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

リクライニングやティルト機構の付いた車いすでは、経験した人も多いのではないでしょうか。このような機能の操作レバーがブレーキの操作レバーと似ていることが混乱の原因です。形状や色を変えることで、間違いを防ぐ対策をしている車いすもありますが、判別しづらい機種もあり、利用者側でわかり易いマークをつけておくなどの工夫をすることもヒヤリ･ハット防止には役立つでしょう。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：操作に慣れていなかった
モノ：操作レバーが同じ箇所にたくさんついておりわかりづらい

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.